

セミれぽ！
～セミナー・イベントから見るデータ利活用最前線～

HITACHI
Inspire the Next

マイナビニュースフォーラム2019 Winter for データ活用

「もうデータの可視化に時間をかけない！戦略展開スピードを劇的に向上するリアルタイム可視化とは？」

2019年12月13日(金曜日) JR新宿ミライナタワー

“ビッグデータ”や“IoT”といった言葉は、新聞・雑誌・Webサイトで見かけない日がないほど一般的になりました。客観的な数値をもとに定量的な分析に基づいた戦略の企画、実行を指向する企業が増えてきている証拠と言えるでしょう。

しかし、データ利活用には難しい点や気をつけるべきポイントが多く、新サービスや技術革新のサイクルが激しい分野でもあります。データ利活用を進めていくその前に、日頃からの情報収集が大切です。

このセミれぽ！(セミナーから見るデータ利活用最前線)では、セミナーのレポートを通じて、データ利活用の最新情報をお届けしていきます。

マイナビニュースフォーラム2019 Winter for データ活用

マイナビニュースフォーラム 2019 Winter for データ活用 ～データが促すビジネスの再定義～ 公式サイトはこちら。
https://news.mynavi.jp/lp/2019/business/enterprise/dataforum_winter/

テクノロジーが飛躍的に進化し、あらゆるデータの収集・分析が可能となり、ビジネスのかたちは大きく変わり始めています。

「マイナビニュースフォーラム2019 Winter for データ活用」では、「製造業」「流通・小売業」「金融業」の3トラックに分かれ、各テーマに沿った講演が実施されました。当日は、経営戦略を見つめ直すきっかけの提供をねらいとして、先進的な取り組みでビジネスをリードする9社がkeynoteセッションに招聘され、各社から取り組み事例など示唆に富んだ講演が行われました。

【Keynoteセッション企業】

<製造業>

- ・日産自動車株式会社
- ・パナソニック株式会社
- ・株式会社クボタ

<流通・小売業>

- ・アスクル株式会社
- ・株式会社三越伊勢丹
- ・株式会社SHIBUYA109エンタテイメント

<金融業>

- ・日本銀行
- ・株式会社マネーフォワード
- ・株式会社新生銀行

このほかにも協賛各社を含め20社以上の講演が行われ、当日来場者は約500名にのぼり、さらに会場の様子をリアルタイムに配信するWEBセミナーも同時開催され、盛況な催しとなりました。

「業界トッププレーヤーたちの先進的な取り組みを知りたい」「成果を挙げた事例から学びたい」「データ利活用の動向を幅広く情報収集したい」といった、データ利活用についての関心の高さを再確認するフォーラムとなりました。



右：当日の会場、JR新宿ミライナタワー
マイナビニュース12F「製造業」トラックの様子——

戦略展開スピードを劇的に向上するリアルタイム可視化とは？

右：日立社会情報サービス ソーシャルサービス事業部 益子原による講演「もうデータの可視化に時間をかけない！戦略展開スピードを劇的に向上するリアルタイム可視化とは？」の様子——

デジタル変革により、IoTデータやビジネスデータなど、日々蓄積されていくデータは増加の一途をたどっています。

企業はデータを活用した戦略の策定・実現に向けて、BIツールなどによる可視化に取り組んでいますが、データが増大したことで時間も手間もかかり成果につながりにくいのが現状です。

当社は「もうデータの可視化に時間をかけない！戦略展開スピードを劇的に向上するリアルタイム可視化とは？」と題して、データ活用における“PDCAサイクルの足かせ”となる可視化の工程をリアルタイムに行うことで、戦略の意思決定スピードを向上する方法をお伝えしました。



データの爆発的増加と活用促進に伴い、可視化への要求レベルが上昇

(※1)(※2)：ビジネスデータとセンサーデータについて——

センサーデータの活用を従来の可視化手法で行うと時間もコストも増加し、非効率となってしまう。

この課題を解決するため、過去データを含む全データを網羅的に扱い、時系列に特化した対話型のデータ可視化を可能にするプラットフォームとして、当社はZoomdataの取り扱いを開始しました。

重要指標、サマリーデータ、そして過去データを含みローデータ全件まで、同一ダッシュボード上でリアルタイムに可視化できるようにすることで、IoT分野におけるデータ活用業務を属人化・ブラックボックス化から解放します。

Zoomdataの紹介ページはこちらから。
<https://www.hitachi-sis.co.jp/service/bi/data/zoomdata/index.html>

Zoomdataの紹介ページURL
こちらから



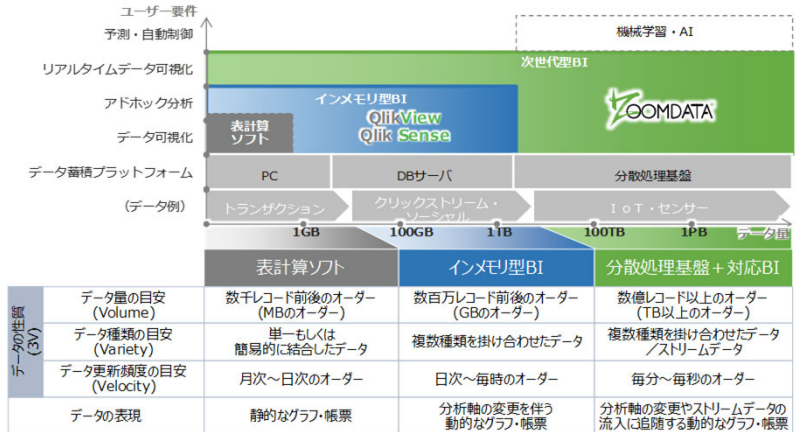
数値データを一目でわかる形で整理する——。ビジネスの洞察を得るため、業務の効率を上げるため、迅速な対応を可能にするため、さまざまな目的でデータの可視化が行われてきました。

表計算ソフトによる単一データのグラフ化からはじまり、直近の10年余りでインメモリ型のビジネスインテリジェンス（BI）が国内市場に多数登場しました。当社も、データ統合、可視化、アドホック分析基盤を中心に、約10年間で300社以上のデータ活用システムを構築してきました。

これまでのデータ利活用のプロジェクトは、基幹システム・業務システムのトランザクションデータに、マスタなど分析の軸となるデータを付加するためにデータの抽出・統合を行い、データの可視化を行うケースが一般的でした。しかし各種業務システムから得られるビジネスデータ(※1)とは異なり、ビジネスの現場から発生し続けるセンサーデータ(※2)は爆発的に増加しており、このようなセンサーデータ——現実世界を写し取ったデータのリアルタイム可視化ニーズが高まっています。講演では、新しいテクノロジーによるリアルタイム可視化で、新たな価値の創出やサービスの高度化に成功した事例についても紹介しました。

(※1)ビジネスデータ＝各種業務システムなどのデータ、業務システムの動作に合わせて発生する
【質】ビジネス的に意味を持った情報 【量】ビジネスの動きに比例して増大

(※2)センサーデータ＝機器やセンサーから得た現場データ、デバイスから自動的に発生し続ける
【質】現実世界を写し取った数値の羅列 【量】指数関数的に増大（デバイス×時間）

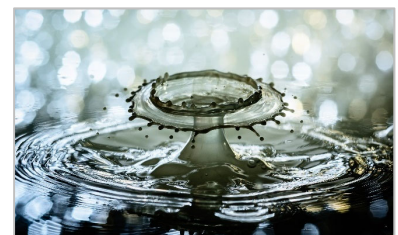


データ活用におけるグローバル最新動向

✓ グローバルの可視化ニーズは“ms(ミリ秒)”の世界へ——

ミリ秒単位の可視化によって現実とデジタルとの境界線をなくし、少しでも早く状況を把握したいといった、デジタルツインを志向するニーズが多く寄せられています。

グローバルでは、このような新しい大量のセンサーデータを業務に取り入れ、これまで引き出せなかった新しい価値を生み出す源泉として活用する取り組みが既に始まっています。



データ活用に関するご相談は、以下のサイトで承ります。
https://inquiry.hitachi-sis.co.jp/webapp/form/21057_xdfb_93/index.do?g=46

データ活用に関するご相談
こちらから



イベント・セミナーに関する情報は、当社ホームページからご覧いただけます。
<http://www.hitachi-sis.co.jp/events/index.html>

お問い合わせ・ご相談は、株式会社日立社会情報サービスまで

- ・記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
- ・本カタログの内容は、2020年1月現在のものです。
- ・本製品を輸出される場合は、外国為替及び外国貿易法の規則ならびに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

 株式会社 日立社会情報サービス
<http://www.hitachi-sis.co.jp/>